

学年部会	テーマ「ICT機器を活用して個別支援を充実させよう部会」
実践内容	「すぐできる？効果的！ICT機器を活用した充実支援アイデア集」
教科・単元名	生活単元学習ほか

1. 実践活動のねらい

本校の個別支援級には、26名の児童が在籍している。昨年度より「学習室」と名称を改め、インクルーシブ教育を実現するために、校内の通級指導教室のような位置づけで、必要に応じて児童が能動的に利用する環境が定着しつつある。このような状況のため、国語・算数で躓きがあった時などに学習室を利用するだけの児童もいれば、学校生活の多くの時間を学習室で過ごす児童もいる。

この実践活動では、そのような様々な形態で利用される学習室で、子ども達一人ひとりのニーズに合った支援をするために、ICT機器の利活用が有効であると考え、実践を通して成果と課題を考察した。実践に当たっては、学習室担任全員に協力をして頂き、「すぐできるか、慣れると便利か」「効果的か」などの面でのフィードバックを頂いた。

2. 実践の内容・経過

学習室を利用する子ども達にとって、視覚支援の充実は多くの場合効果的である。また、児童によっては聴覚優位で音声による反復学習が有効な場合もある。鉛筆の持ち方など、微細運動に課題のある児童にとっては、鉛筆で書字をする以前にスモールステップであるタッチ操作で学習を進めることも有効である。また、これらを組み合わせることで（例・タッチすると音が出る、色が変わるなど）、より意欲的に取り組める場合もあった。支援を実践するにあたって、本年度の予算で学習室で3台のiPadを購入し、低・中・高学年用として活用した。

また、既に全校にある50インチテレビと、パソコンの動画編集ソフトを活用し、生活単元学習の全体活動や、常時活動の場で役立てた。

■具体的な手立て

(1)【タブレットPC】すぐできる！写真で学習・体験活動の振り返り

iPadに限らず、ほぼ全てのタブレットに備わっているカメラ機能。本年度、全市の個別支援級に在籍する4年生の児童が参加する、合同林間学習に担任がiPadを持参し、活動の様子を写真に収めた。帰校後、夏休み明けに振り返り活動を行った。合同林間学習は7月末に実施されたため、しばらく時間が経過していたが、実際に取り組んでいる様子の写真や、豊かな表情で写った写真を見ながら振り返り学習をすることで、具体的にやったことまで思い出しながら振り返ることができた。



利用したアプリ名：カメラ（iPad標準）

© Apple Inc. All rights reserved.

価格：無料

(2)【タブレットPC】慣れると便利！写真をトレースした線画をもとに、版画の下絵を作成

版画の下絵制作に写真を活用することはあるが、視覚による認識に課題があり、写真を見ても輪郭を判別することが難しい児童も多い。その際、教師が写真をもとに線画を予め作成し、お手本とすることで、より分かりやすい支援をすることができる。

このとき、FiftyThree社のアプリ”Paper”を活用し、誰でも写真をトレースして簡単に線画を作成することができる。このアプリは本来イラストを描くためのものであり、写真に好きな色で線や記号を書き込んだり、白紙に好きなタッチで線や色を描くことができる。



利用したアプリ名：Paper

© FiftyThree, Inc.

価格：無料



① 写真に沿って線を描く



② 写真を取り除く



③ 線画を見ながら下絵を描く

(3) 【タブレットPC】すぐできる！ひらがなやカタカナ、漢字をなぞって確認

ひらがなやカタカナ、漢字の書き順を、指でなぞりながら確認できるアプリ「常用漢字筆順辞典」を、書き順や字形の確認に役立てている。指でタッチしてなぞると、色が変わり、書き順に沿って次々と色が変わっていくので、便利である。漢字テストなどで間違った字を練習する前に、指で2回なぞった後に鉛筆で書字することで、正しい書き順で反復練習をすることができている。

また、このアプリはひらがなやカタカナも書き順を確認できるので、鉛筆を持つことに抵抗があったり、書字が困難であったりする児童の、文字の練習にも役立てている。



	<p>利用したアプリ名：常用漢字筆順辞典 FREE</p> <p>©NOWPRODUCTION</p> <p>価格：無料</p> <p>※無料版はインターネット接続中に広告が表示されます。</p>	
--	--	--

(4) 【パソコン・TV】慣れると便利！ビデオカメラで撮った動画を編集し、SDカードに入れてTVで再生

個別学習室の年度末には、「卒業と進級を祝う会」という行事がある。高津市民館のホールのような大きなステージで行われるが、ダンスなどを発表する学校が多く、生活単元学習の時間を利用して計画的・長期的に練習を重ねることが多い。

その練習のために、ビデオカメラで撮影したお手本を職員室のパソコンにインストールされている「Corel Video Studio」を使って編集し、SDカードに書き出すことで、パソコンが無くともTVだけでお手本の映像を再生し、練習することができる。この時に、映像や音声の再生スピードも調節することができるので、速い動きの部分もゆっくりと確認することができる。

なお、本年度はお手本を「スロー版→通常速度版を3セット」としてSDカードに書き出して朝の常時活動で練習を重ねたところ、1～2週間ほどで多くの児童が振り付けを覚えてきた。

	<p>利用したアプリ名：VideoStudio Pro X7 * Corel Corporation の商標です。</p> <p>©Corel Corporation</p> <p>価格：職員室のPCにインストールされています。(バージョンは異なる場合があります。)</p>	
--	---	--



SDカードに書き出し画面



50インチTV+SDで毎朝練習

3. 考察・成果や課題

視覚支援の有効性は、実践を重ねるとともに確認できた。しかし、機器を用いる際、特にタブレットPCについては慣れるまではタブレットそのものに対する興味が勝ってしまい、落ち着いて学習できない場合もあった。文房具のひとつとして、特別なものではないくらい自然に使うと共に、対象とする児童のニーズをきちんと把握した上でICT機器を活用することが肝要であると感じた。